

加藤 隆史（カトウ タカシ）

Takashi KATO

東京大学大学院工学系研究科教授・1959年生
東京大学大学院工学系研究科博士課程終了
元関東支部長・Polymer Journal 誌編集長
Professor, School of Engineering, The University of Tokyo
Born in 1959, Degree: Dr. Eng. (The University of Tokyo)
Editor-in-Chief of Polymer Journal (The Society of
Polymer Science, Japan and Springer Nature)



高分子学会は、高分子およびその関連分野において、研究者・技術者が交流する場、成果を発信する場であり、新しい有用な情報やネットワークを得るための組織です。高分子学会を、ますます世界に冠たる学会として、さらに会員が満足して学会活動に参加できるようにします。委員会・支部・研究会・若手会は、高分子学会の重要な機能です。ここで頑張っている会員の皆さんと、直接対話を行って、一緒に前進して行けるようにします。

・学会会員の交流促進と満足感の増進

学会の会員としての参加満足感が重要です。そのために、学会の基本である年会・討論会・ポリマー材料フォーラム等をより魅力的にします。重要な新しいテーマを的確にとらえて、それらを反映させた会議・シンポジウム・Webinar等を充実させます。

・産官学連携

高分子学会会員の構成は産と学の割合が約半々という特徴を有しています。これをより生かさない手はありません。産官学の交流を強化・推進します。産業界の会員の皆さんが、我が国の高分子の最新成果にアクセスでき、産と学の相互作用の場としての高分子学会がより有意義になるようにします。高分子同友会や、他分野の学会との連携も強化します。

・国際学術交流

年会・討論会などへの海外からの参加増強を進めます。また、Polymer Journal 誌の編集委員長を5年間以上務め、多くの方々のご協力のおかげでその注目度をあげてきました。さらに世界的な国際誌に育てます。今後ともジャーナルや国際会議などにより、我が国の高分子研究の高いレベルを機軸に国際貢献・国際学術交流に努めます。

・人材育成

高分子の科学技術を担う人材育成を進めます。さらに、若手や学生が主体的に参加できる環境を調べ、材料の中核の一つであり、社会に貢献できる材料である高分子の未来を創成します。

約束した公約については責任をもってコミットし続けます。

佐藤 尚弘（サトウ タカヒロ）

Takahiro SATO

大阪大学大学院理学研究科教授・1957年生
大阪大学大学院理学研究科博士課程修了
高分子学会副会長・高分子論文集編集委員長
Professor, Department of Macromolecular Science,
Graduate School of Science, Osaka University
Born in 1957, Degree: Ph.D. (1985, Osaka University)
Vice President of the Society of Polymer Science, Japan
Editor in Chief of Kobunshi Ronbunshu



このたびは、次期会長候補としてご推薦いただき、大変光栄に存じます。私のような地味な基礎研究を行ってきた者を暖かく育てていただいた高分子学会に少しでもご恩返しができるかと思ひ、今回のご推薦をお受けいたしました。

学会とは、学問に関する様々な出会いを提供するのがその本分だと思います。私のこれまでの研究も、多くの人との出会い、刺激的な論文・学会発表との出会いにより成り立っています。学会として、如何に実り多き出会いを提供できるかに注力したいと考えます。

・**産学間の出会い**：年次大会、討論会、ポリマー材料フォーラムの三大大行事を基点に、各支部や高分子同友会とも協力しながら、新しい企画を提案し、産学間のよりよい出会いを提供していきたい。また、高分子、Polymer Journal、高分子論文集の学会三誌や Webinar、高分子学会講演会・ポリマーフロンティア 21 においても、産学双方に興味を持ってもらえる特集・企画を組み、魅力ある内容にしていきたいと考えます。

・**異分野間の出会い**：高分子科学の今後の発展には、異分野間の出会い・融合が不可欠です。各専門分野の壁をできるだけ低くする新企画を三大大行事や学会三誌を中心に、高分子学会の各研究会や他学会とも協力しながら提案していきたいと考えます。

・**学問との出会い**：学会の将来を見据えたときに、若手の育成と一般市民・近隣諸国への高分子科学の普及は、重要な課題です。各支部の若手研究会や高分子未来塾を通じた活動およびホームページの充実化、三大大行事での英語セッション・チュートリアルセッションの拡充等を図りたいと考えます。

最後に、大所帯の学会内の各支部・研究会・委員会や事務局、高分子同友会と頻りに意見交換を行い、意思疎通を密にしながら、学会のより良い運営に当たります。